

本紙編集局で、持ち寄った記事をもとに模擬新聞を作成する留学生たち
11日午後、大阪市浪速区(前川純一郎撮影)



京大留学生21人が 新聞の日本語学ぶ

本社で研修

京都大学に留学して日本語や日本文化を学んでいる13カ国21人の留学生が1日、産経新聞大阪本社(大阪市浪速区)で新聞で使う日本語やニュースについて研修し、持ち寄った記事をもとに模擬新聞を作成した。

日本を深く理解する海外の人材育成を目的に、文部科学省が各国の大使館推薦

で全国各地の大学へ受け入れている「日本語・日本文化研修留学生」。今回研修を受けたのは昨年10月から約1年、京都大国際高等教育院の日本語・日本文化教育センターに留学中の韓国・中国・ベトナム・タイ・モンゴル・米国・スウェーデン・チェコ・フランス・ベルギー・ポーランド・ロ

シア・オランダの大学生。

留学生は、コーヒーチェーンの新品や海外の日本語作家の紹介、京都の四季の美しさなど事前に書いた記事について本紙記者から添削指導を受け、見出しなどを考案。整理部でレイアウト端末を実際に操作しながら新聞を作成した。

指導教官のルチラ・パリハワダナ教授は「新聞という日本語の文章と文化を知りたい経験になった」と語った。